

教科書「Silver Burdett Making Music」の低学年の 内容からみる諸芸術教科を統合する方法

曹 念 慈

(本講座大学院博士課程後期在学)

はじめに

90年代に入ってから、各国は科学・技術の進歩などによる急激な変化に対応するために、新しい時代にふさわしい教育課程を模索し、教科の再編、教科の統合を試みている。その影響を受けて音楽などの諸芸術教科は学校教育の中にかに位置づけられるべきかが多く論議されている。そうした論議の中で、諸芸術を統合する「芸術統合カリキュラム」が1つの提案として挙げられる。

諸芸術を統合する背景には、学校週5日制の実施、教育内容の精選、子どもたちの実生活とのつながりを重視する経験主義の復活、及び美的なものに対する感受性を高めることを目的とする美的教育の影響があると考えられる。また、諸芸術を統合することによって、過去からずっと存在意義が問われてきた諸芸術教科の存立基盤をより強固にすることができる (Bresler 1995)。

美的教育の提唱者の1人、著名な音楽教育哲学者リーマーは、芸術統合教育の意義と問題点を次のように指摘する。統合教育の価値は、①同族の別の科目と比較対照することによって、その科目の独自性を示し、各科目をいっそう明確にする、②同族のすべての科目に共通する基礎的原理を明らかにする、③各科目は同族中の一員であり、その同族(教科)は、いくつもある同族(教科)の中の1つである、ということにある。統合教育の問題点は、①同族の似たところばかりに注意を集中し、各科目の特徴を埋没させる、②事実、そうでないことが多いのに、表面的類似を、基礎をなす単一性の現れであると思ひ込む、③一般化され、本質から離れてしまった「芸術鑑賞」を是とし、特有の知覚-反応経験を軽視する、④コースを組織するにあたって、統一感をもたらすために非芸術的原理を採用する、ということにある¹⁾。

1991年から、日本では、音楽・図工・国語・体育を統合した「表現科」がいくつかの研究開発校で実践された。中国と韓国でも、諸芸術教科を統合することを試みている²⁾。台湾では、1998年の新課程「九年一貫國民教育課程總綱綱要」によって、従来の「視覚芸術」、「音楽」を統合し、さらに新しい「表演芸術」を加えて「芸術と人文領域」(以下、「芸文」)を新設した。「芸文」が成立されてから、新課程の内容が曖昧であることや教師の経験不足などの原因で、統合カリキュラムを実施する際に、3分野が強引に関連づけられて統合された、各芸術教科が統合されることによってそれぞれの独自性が薄くなり表面的で形式的な統合になってしまった、などの批判が出ている³⁾。どのように音楽、視覚芸術、表演芸術を統合したらいいのかは台湾の諸芸術教育の関係者たちの今日的課題になっている。特に台湾の小学校1、2年の「芸文」は、「社会」領域、「自然と生活科学技術」領域とともに「生活課程」に統合されているために、いくつかの「生活」検定教科書における音楽分野は、単元の主題に合わせて、単に歌ったり、踊ったりするだけで音楽の学習が希薄になってしまったという批判が出ている。この問題はまさに、前述のリーマーが指摘した芸術統合教育の問題点と一致していると言えよう。

そこで、米国において、1970年代から、諸芸術教科の統合の経験を有するSilver Burdett社の教科書を検討することによって、上記の問題に示唆が得られると考え、この研究に至った。研究対象は2002年版の教科書シリーズ「Silver Burdett Making Music (以下、「Making Music」とする)」の第1、2学年の教師用指導書とする。また、「Making Music」は、1994年に出版された「全米芸術教育標準」(National Standards for Arts Education)に基づいて編集されている。そのため、本研究では、まず、「全米芸術教育標準」における諸芸術教科を統合する方法を検討する。

日本の「表現科」は全国的に実践されなかったが、各研究開発校は現在においても様々な芸術統合カリ

キュラムの開発に向けて努力している。また、1998年から新設された「総合的な学習の時間」によって、日本の音楽科は1つの独立した教科でありつつ、しかも他教科との連結も求められている。2004年の日本教科教育学会第30回全国大会のシンポジウムでも、教科の再編について論議し、諸芸術教科を統合する可能性が提案された。以上の動向から、今後の日本でも芸術教科の統合の可能性がないとは言い切れない。本研究をとおして、すこしでも台湾と日本の音楽科教育に役を立てれば幸いである。

1 「全米芸術教育標準」における諸芸術教科を統合する方法

「全米芸術教育標準（以下、「標準」とする）」では幼稚園から高校3年までの13年間で3つの段階に分けられ、各段階には、「ダンス」「音楽」「演劇」「視覚芸術」がそれぞれ独立した教科として編成されている。さらに、第3段階では、少なくとも1つの芸術分野に習熟する全員用の教育標準と各芸術分野に熟達する選択者用の教育標準が並置されている。

各分野には児童・生徒が達成すべき能力がいくつか示されている。それぞれの能力には、1つの「内容標準」と複数の「達成標準」が示されている。「内容標準」は、児童・生徒が知るべきこととできるべきことの具体的な記述である。「達成標準」は、第4、8、12学年を終える時に児童・生徒に望まれる能力の達成度の具体的な記述である。

音楽教科について具体的に検討する。

前述した3つの段階は、幼稚園から小学校第4学年(k-4)までの第1段階、小学校第5学年から中学校第2学年(5-8)までの第2段階、中学校第3学年から高校第3学年(9-12)までの第3段階、の3つの段階である。各段階には、9つの「内容標準」が示されている。9つの「内容標準」を以下に示す。

- ① 歌唱：1人で、またはみんなで様々なレパートリーを歌う。
- ② 楽器演奏：1人で、またはみんなで様々なレパートリーを演奏する。
- ③ 即興：旋律、変奏、及び伴奏を即興する。
- ④ 作曲と編曲：具体的なガイドラインの範囲内で作曲し編曲する。
- ⑤ 読譜と記譜：楽譜を読み、記録する。
- ⑥ 鑑賞：音楽を聴き、分析し、記述する。
- ⑦ 評価：音楽と演奏を評価する。
- ⑧ 音楽と他芸術、音楽と芸術以外の教科の間の関連を理解する。
- ⑨ 歴史と文化に関して音楽を理解する。

ここでは、研究の便宜のために、「内容標準」⑧「音楽と他芸術、音楽と芸術以外の教科との関連性を理解する」を、「内容標準」8a「音楽と他芸術との関連性を理解する」と「内容標準」8b「音楽と芸術以外の教科との関連性を理解する」の2つに分ける。本研究と深く関連している「内容標準」8aとそれに対応する「達成標準」の3段階の内容を表1に示した。

内容標準8aに対応する各段階の達成標準の内容を詳しく検討すると、諸芸術が「共通の接点」で統合されていることが明らかである。それらの共通の接点を太字で表1に示してある。例えば、本研究と関連する第1段階（幼稚園から第4学年）の達成標準8aの内容は「様々な芸術において使われる専門用語の類似点と相違点を見分ける」であるため、諸芸術の共通の接点は「専門用語」になる。したがって、「標準」の第1段階の諸芸術教科を統合する方法は諸芸術の共通の専門用語で統合する方法である。

MENCが出版した「教授例」に、具体的な例が示されている。その中に、「反復」が共通の専門用語として挙げられている。その内容は以下のようなものである。

- まず、子どもたちは様々な芸術における「反復」の意味を体験する。視覚芸術については、ポップ・アートを代表する芸術家の1人ウェイン・ティボー (Wayne Thiebaud) の絵「パイ・カウンター(The Pie Counter)」が例として挙げられている。子どもたちはその絵の3角形のパイの反復、円形のお皿の反復、及び絵の色使いの反復を確認する。音楽については、子どもたちは反復のリズムやメロディーを含む曲（例えば、よく知られている歌唱曲「アリラン」、「Mama Paqueta」）を探し出し、反復の部分を手でたたいたり、歌ったりする。また、チャイコフスキーの「くるみ割り人形」の中の「金平糖の精の踊り」の反復の回数を数えたりする。あるいは、モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」の第4楽章のロンド形式やプロコフィエフの「3つのオレンジへの恋」進行曲のロンド

表1 内容標準8aとそれに対応する各段階の達成標準の内容

内容標準8a 「音楽と他の芸術分野との関連を理解する」			
達成標準			
k-4	5-8	9-12 (熟達)	9-12 (上達)
<ul style="list-style-type: none"> 様々な芸術において使われる専門用語（形式、線、対比）の類似点と相違点を見分ける 	<ul style="list-style-type: none"> 2つかそれ以上の芸術において、類似した出来事や場面、感情、考えを芸術作品に変容させる際に、各芸術における特徴的な素材（すなわち音楽における音、踊りに関する動きなど）がどのように使われるのかを比較する 	<ul style="list-style-type: none"> 要素、芸術のプロセス（想像力、職人技等）、構成原理（統一と多様、反復と対比）がどのように様々な芸術の中で類似した、または特有の仕方で使われているのかを説明し、具体的な例を引用する。 特定の時代や様式の中で2つかそれ以上の芸術の特徴を比較し、様々な文化から具体的な例を引用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な歴史時代と文化の中の諸芸術間の特徴的な要素、芸術のプロセス、及び構成原理の使用を比較する。 作る人、演じる人、及び芸術の生産と供給に関わるその他の人の役割が様々な芸術においてどのように似ているか、あるいは異なっているかを説明する。

形式の反復の部分を確認する。詩については、文豪エドガー・アラン・ポオの詩「鐘」などが例として挙げられ、子どもたちは詩の反復の部分を読みたり、声を出して読んだりする。その他、子どもたちは自分の身の回りの環境や服、家の中に飾られている芸術品に反復パターンがあるかどうかを確認する。

- 次に、子どもたちは個人やグループで好きな音を使って「反復」を含めた小さな曲を創作し、みんなの前で発表する。
- それから、みんなで様々な芸術における「反復」を比較する。
- 最後に、自分のノートに「反復」を含む音楽と「反復」を含む1つの他芸術と比較した結果を書く。（例えば、音楽では、反復する音形を用いると、その音形を覚えやすくなる。絵画では、反復するアイテムを一度に視界に捉えることができる。詩では、反復パターンを朗読すると、反復する部分を覚えやすくなる。……など。）(MENC 1994)

以上から、「標準」の第1、2学年における諸芸術教科を統合する方法の最大の特徴は、各芸術教科の類似点をとおして諸芸術教科を統合しつつ、諸芸術の相違点（独自性）を確認することにあると考えられる。上記のMENCの「反復」の例でも、使用する芸術によって表現された「反復」の内容が異なることを子どもたちに伝えようと努力している。この特徴はリーマーが提起した芸術統合教育の価値と一致した。つまり、「標準」の内容標準8aのような統合方法をとおして、諸芸術の類似点だけに注意を集中してしまい、各芸術の特徴が埋没してしまう危険を避けることができ、各芸術教科の独自性をさらに明確化することができるのである。

次に、「標準」に基づいて編集されたSilver Burdett社の音楽教科書「Making Music」が実際にどのように諸芸術教科を統合したのかを検討する。

2 教科書「Making Music」の構成

音楽教科書シリーズ「Making Music」は、幼稚園から小学校第6学年までの7冊から成っている。各学年の主要教材は、主として、子どもたちの教科書、幼稚園と1年生用の大きい本（Big Books）、教師用指導書、及び指導用と鑑賞用のCDパッケージ、で構成されている。

各学年の教科書は12ユニットで構成され、各ユニットの下には9から12レッスンが組織されている。ユ

表2 第1学年のユニット1レッスン7の一覧表

一覧表	
重点要素	表現性 アクセント
目標技能	動き アクセントと非アクセントの拍子を動きで表現する
連結活動	関連の諸芸術 絵に表現されたアクセントについて話し合う
教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・「Boogie Chant and Dance」 ・「2つの小さなソーセージ」 ・教師用参考書 ・タンブリン、ハンド・ドラム、ウッドブロック、他の打楽器 	
単語	
<ul style="list-style-type: none"> ・アクセント ・リズム 	
◆◆◆◆「全米芸術教育標準」◆◆◆◆	
4a	詩に伴奏を作曲したり編曲する
6b	音楽に関して動くことや問題に答えることで音楽を表現し、記述する
8b	音楽と言語芸術や他教科との関連方法を確認する
補充教材	
アクセントについての補充教材	
“Bob-a-Needle,” p. 228	

ユニット1から6までは「音楽づくりへのステップ (Steps to Making Music)」であり、その下の各レッスンには、「音楽要素」、「技能」、「音楽と他教科との連結」の3つの指導内容が含まれている。ユニット7から12までは「音楽づくりへの道 (Path to Making Music)」であり、その下の各レッスンの内容は1つのテーマで統合され、音楽を探索する内容が提供されている。また、ユニット7から12までの各レッスンの学習内容は、ユニット1から6までで学んだ3つの指導内容をもとに学習を進めている。要するに、ユニット1から6の学習は、音楽の基礎・基本の訓練に重点を置いている。ユニット7から12の学習はその基礎・基本を土台にして、さらなる音楽づくりへの探求を提供していると言えよう。

教師用指導書の各レッスンの先頭ページにある一覧表にそのレッスンの対象となる「音楽要素」、「技能」、及び「音楽と他教科との連結」の内容、レッスンで使用される歌唱曲などの教材名、単語、「標準」との関連性、及び補充教材が簡略に示されている。例として、第1学年のユニット1レッスン7の一覧表を表2に示した。表2のように、各レッスンでは、「音楽要素」、「技能」、及び「連結」は1レッスンで1内容だけが示されている。この

ことによって、教師はその授業で子どもたちに達成させるべき学力を直ちに理解できる。第1学年から第6学年までの間に「音楽要素」としてテクスチャとハーモニー、音色、メロディー、形式、リズム、表現性の6つが含まれ、「技能」には歌唱、動き、読譜、鑑賞、遊び、創作の6つが含まれている。「音楽と他教科との連結」における「他教科」には音楽以外の諸芸術、文化、スタイル、言語、自然科学、社会、数学が含まれている。

次に、前述した各レッスンの先頭ページの「一覧表」に音楽と諸芸術を連結する学習内容が示されているもの、「標準」の内容標準8aの学習内容が示されているものを対象として検討する。

3 「Making Music」の指導内容からみる諸芸術教科を統合する方法

「Making Music」の第1学年は、12ユニット134レッスンで構成されている。この学年の教師用指導書の一覧表に諸芸術を統合する内容が示されているのは13レッスンだけである。

第2学年は、12ユニット132レッスンで構成されている。一覧表に諸芸術を統合する内容が示されているのは18レッスンだけである。つまり、「Making Music」のすべてのレッスンに諸芸術の統合学習が含まれているのではなく、全体の10%から12%程度しか諸芸術の統合学習が行われていないのである。

ここでは、「Making Music」の第1学年と第2学年の諸芸術を統合する学習内容を表3と表4にまとめた。

表3 「Making Music」第1学年における諸芸術を統合する学習内容

ユニット・レッスン	教材	作品を作った芸術家	諸芸術を統合する指導内容
1・7	歌：小さな緑の蛙 絵：白い蓮 詩：蛙	アメリカの伝統の歌 クロード・モネ(フランス) Mary Ann Hoberman	蛙に関する芸術作品を聴く、歌う、遊ぶ学習活動など。
1・8	歌：ねんねしよう。(スペインと英語の歌詞付き) 歌詞：子守歌	Jose-Luis Orozco 子どもたちが創作する	子守歌を歌い、聴き、自分の子守歌を作る。
1・10	歌：Here Comes Valerie 詩：Jellyfish Walk	アメリカの伝統のゲーム・ソング Tony Johnston	歌や詩にあわせて、ゲームをする。
3・8	歌：輝き星、明るい星 絵：星月夜 詩：星	アメリカの伝統のフォーク・ソング ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ(オランダ) Lori Marie Carlson	音楽、芸術、文学がどのように星を表すかを探究する。
4・2	絵：黄色い枕の上の猫 歌：いたずらな猫(ハンガリー語と英語) 歌：Mos mos(猫) 詩：猫(スペイン語と英語)	フランツ・マルク(ドイツ) ハンガリーのフォーク・ソング アメリカ原住民ホピー族の歌 Lori Marie Carlson	猫に関する芸術作品を歌う、律動する、読む、聴く学習活動など。
4・7	歌：雨降り(日本語のローマ字と英語) 詩：花の咲いているような傘	中山晋平 Stanley Cook	芸術家はどのように雨のムードを表現するかを話し合う。
5・6	歌：私たちはヤギを飼っている(ヘブライ語と英語) ダンス：イスラエルのフォーク・ダンス(歌にあわせて)	イスラエルのフォーク・ソング	イスラエルの音楽とダンスを体験する。
5・10	歌：Grannyの庭にいる鳥たち(ウクライナ語と英語) 詩：私は小さな鳥を見た(英語)	ウクライナのフォーク・ソング 伝承童謡	影絵芝居を上演する。
5・11	鑑賞曲：ハード・タイムズ(スチール・ドラムの音楽) 鑑賞曲：Sekar jepun 民話：踊り豚	Len Boogsie Sharpe 伝統のバリ島のガムラン音楽 バリ島の民話	バリ島の民話を劇化する。
6・4	歌：小さな黒い昆虫 織物：クナ族(パナマ東部とそのカリブ海沖合にあるサン・ブラス島の原住民)のモラ(アップリケ) 詩：おい、虫!	音楽：Ruth Boshkoff、 歌詞：Margaret Wise Brown サン・ブラス島からのアップリケ Lilian Moore	織物と音楽のパターンを探し、比較する。
8・3	歌：みんなが言う 写真：アルビン・エイリーのアメリカン・ダンス・シアターのダンサーたちの写真	Malvina Reynolds 不明	ダンサーの写真について話し合い、様々なボディー・シェープを表現する。

10・6	歌：あ！このきれいな蝶（フランス語と英語） 鑑賞曲：蝶 絵：標題なし 詩：蝶の歌（英語）	仏領サンピエール・ミクロンのフォーク・ソング Edvard Grieg Bob Marshall インドの詩、Frances Densmore訳	蝶に関する芸術作品を聴く、読む、歌う、律動する学習活動（例：帝王蝶の絵について話し合う）。
11・9	歌：宇宙虫	April KassirerとSusan Marcus	クラスの宇宙虫の壁画を作る。

表4 「Making Music」第2学年における諸芸術を統合する学習内容

ユニット・レッスン	教材	作品を作った芸術家	諸芸術を統合する指導内容
1・2	歌：歌う時間だよ ダンス：タップ・ドッグ (Tap Dogs)	Raffi, D. PikeとB.&B. Simpson	音楽のリズムとタップ・ダンスのリズムについて話し合う。
1・10	歌：ピザ、ピザ、ダディーオ (Daddy-o) 絵：ロンドン・ブリッジを遊んでいる子どもたち	アメリカの歌い遊び William H. Johnson	歌遊びに関する歌を歌い、歌遊びに関する絵を鑑賞する。
2・1	歌：Miss Mary Mack 絵：表題なし	アフリカ系アメリカ人のゲーム・ソング Keith Haring	歌と絵のテンポについて話し合う。音楽に従って動く。絵にまねして動く。
2・3	歌：Four in a Boat 絵：リズムカル	アパラチア山脈のplay-partyソング パウルクレー(スイス)	音楽と視覚芸術のリズムについて観察し、話し合う。
3・1	街の韻文：Boogie Chant and Dance 絵：音部記号の描かれたモダン絵画 伝統のJump-Rope韻文：2つの小さなソーセージ	不明 ロイ・リキテンスタイン 不明	音楽と絵のアクセントについて話し合う。
4・2	歌：Dinah 絵：バンジューのレッスン (印象派)	アメリカのフォーク・ソング メアリー・カサット	バンジューの歴史について話し合う。
4・5	歌：きみのための歌 演劇：自分の体でストップ・モーションの遊びをする	Bryan Louiselle	歌詞に合わせて動いたり、ストップ・モーションで立像になったりする。
4・12	歌：おお、星を見て 絵：星月夜	南カロライナ州のフォーク・ソング エドヴァルド・ムンク (ノルウェイ)	星に関する歌を歌ったり、絵を鑑賞したりする。
5・3	歌：家に帰ろう (中国語と中国語の発音と英語) 絵：金山の小百姓の絵 (子どもたちが校庭で遊んでいる)	中国のフォーク・ソング 不明	中国の歌と絵の学習。中国の学校に関する内容の歌と絵の学習。
6・1	歌：でも、猫が帰ってきた	Josef Marais	歌の歌詞を劇化する。フェルマータを劇の中の動きで表現する。音楽と劇の表現性を体験する。

7・3	歌：大きなさく囲い 絵：標題なし	アメリカのカウボーイ・ソング N.C. ワイエス	アメリカ西部（カウボーイ）を描写する歌や絵を学習する。
8・1	鑑賞曲：グリーティング・プレリュード	イーゴリ・ストラヴィンスキー（ロシア）	音楽と絵の形と方向性を理解する。絵で音楽のメロディーを表現する（たくさんの色と線を使って）。
8・5	歌：Ciranda（バラの指輪） 絵：Sally Walker ダンス：円形をつくり、ダンスする。	ブラジルのまわるゲーム歌 Brenda Joysmith	世界中のまわるゲームについて話し合う。
8・7	絵：パリのルーブルでの宮廷舞踏会 ダンス：Pavane et Gaillarde（16、17世紀の宮廷ダンス）	Flemish School	絵やダンスで宮廷ダンスを体験する。
9・7	歌：眠れ、私の小さな人（ハイチ語と英語） 絵：表題なし	ハイチの子守唄 Audes Saul（ハイチ）	ハイチの歌と絵を学習する。
10・7	歌：En nuestra Tierra tan Linda（スペイン語） 絵：夕焼け	Jose-Luis Orozco ディエゴ・リベラ（メキシコ）	メキシコの絵と歌を学習する。
11・2	歌：Kibungo（想像上の森の野獣） 鑑賞曲：O Piao Entrou 物語：Kibungo、森の野獣 ダンス：O Piao Entrou 視覚芸術：Kibungoのマスクを作る	アマゾン雨林のストーリー・ソング ブラジルのゲーム・ソング アマゾン雨林の物語	アマゾン雨林に関する物語、音楽で演劇をする。
12・7	歌：ジングル・ベル 歌：Frosty, the Snowman 絵：休みの馬車ぞり	James Pierpont Jane Wooster Scott	クリスマス、冬、馬車ぞり、雪に関する歌や絵を学習する。

「Making Music」は「標準」に基づき編集された教科書であるために、小学校第1学年と第2学年における諸芸術の統合方法は、「標準」の第1段階（k-4）の「共通の専門用語によって統合する」方法を採用はするが、実際に内容を検討してみると、2つの統合方法があった。表3で示されているように、第1学年の指導内容では「専門用語」によって諸芸術を統合したのは、ユニット6レッスン4だけである。他のレッスンでは主題によって諸芸術を統合している。そして、表4で示されているように、第2学年の指導内容では「専門用語」で諸芸術を統合したのは、6レッスンだけであり、他の12レッスンは主題によって諸芸術を統合している。

第1学年と第2学年の諸芸術教科を統合する方法を表5にまとめた。

表5 第1学年と第2学年における諸芸術教科を統合する方法

方法 学年	専門用語	主題
第1	パターン	蛙、星、猫、雨、イスラエル、バリ島、蝶、クラスの宇宙虫
第2	リズム、テンポ、アクセント、表現性、形と方向性	歌遊び、バンジョー、星、中国（の学校）、アメリカ西部（カウボーイ）、まわるゲーム、宮廷ダンス、ハイチ、メキシコ、アマゾン雨林、クリスマス

表5のように、諸芸術を統合する共通の専門用語は、全部で6つあった。その指導内容については、例えば、第1学年のユニット6レッスン4では、パターンを共通の専門用語として視覚芸術、音楽、言語芸術が統合された。視覚芸術については、子どもたちは織物のパターンを観察し、織物の線の方向や模様の方に注目する。その線の方向や模様の形を音（レガートとスタッカート、大きい声と小さい声、速いと遅い）や楽器で表現する。また、織物の中に音楽のABA形式が見つけれられるかについて話し合う。音楽については、子どもたちは歌唱曲のメロディーやリズムのパターンを認識する。言語芸術については、子どもたちは詩の反復するパターンに注目する。第2学年のユニット3レッスン1では、アクセントを共通の専門用語として音楽、言語芸術、及び視覚芸術が統合された。音楽については、子どもたちはアクセントの記号を学ぶ。言語芸術については、子どもたちは韻文にアクセントを付けて読む。視覚芸術については、子どもたちは芸術家がいかに線や色を用いて、アクセントを表現したかについて話し合う。

また、表5から、諸芸術を統合する共通の主題の設定範囲は、主に子どもたちをとりまく環境や生活経験にあることが明らかである。例えば、蛙、猫、蝶は子どもたちの身近な生き物であり、星や雨は子どもたちの身近な自然の現象である。さらに、他文化を取り入れようとする配慮も見られる。例えば、イスラエルやバリ島に関連する内容などである。

他文化を取り入れることは主題に現れているだけではなく、表3と表4に示されている教材や芸術家からも見られる。「Making Music」には、様々な国や時代の作曲家や芸術家の作品が取り入れられている。歌詞にも様々な国や地域の言葉が取り入れられている。他文化を取り入れた背景には、アメリカが他民族国家であることが考えられる。

以上から、「Making Music」の第1学年と第2学年における諸芸術教科の統合方法には2つの方法があることが分かった。もっとも多く使われている方法は主題による方法である。もう1つの方法は専門用語による方法である。2つの統合方法には、次のような特徴があると考えられる。

- ①すべてのレッスンに諸芸術の統合学習が含まれているわけではない。諸芸術の統合学習のあるレッスンには、音楽と視覚芸術の統合がもっとも多い。
- ②「標準」に含まれている諸芸術教科は、音楽、視覚芸術、ダンス、演劇の4つであるが、「Making Music」の諸芸術の統合学習には言語芸術も含まれている。
- ③諸芸術を統合する共通の主題の設定範囲は、主に子どもたちをとりまく環境や生活経験にある。
- ④他国の様々な芸術作品を取り入れている。

特徴①は、特に強引に音楽、視覚芸術、表演芸術を統合しがちな台湾の「芸文」の教科書に示唆を与えていると思う。

おわりに

「Making Music」を分析して、もっとも印象に残ったのは、諸芸術教科間に共通する教材を数多く含めるように編集されていたことである。例えば、猫という主題に関して、諸芸術教科の具体的な猫に関する作品が数多く示されている。これらの教材には、アメリカの作品はもちろん、世界各国や各地域の代表的な作品や様々な時代の代表的な作品が含まれている。編集者たちが豊富な諸芸術の知識をもっていたからこそ、彼らが作り出した教科書が世界のトップに位置づけられているのであろうと思った。このことから、諸芸術教科を適切に統合するためには、教師が広範な芸術作品を認識することが必要な条件になると言えよう。この条件を達成するためには、チーム・ティーチングを活用すること、教員養成段階から音楽以外の諸芸術教科の授業も必修科目にすることが必要であると考えられる。

また、諸芸術教科（音楽、視覚芸術、演劇、ダンス）が「標準」の中にそれぞれ独立した教科として存在していることは注意に値する。「Making Music」でも、諸芸術の統合学習は10%程度しか含まれていない。さらに、諸芸術の統合学習が行われていても、諸芸術の独自性を確認することに留意している。これらのことは、アメリカでは各芸術教科の系統性、独自性が重視されていることを意味している。

アメリカにおける諸芸術の統合学習は90年代から始まったのではなく、美的なものに対する感受性を高めることを目的とする美的教育の提唱によって、第2次世界大戦後からアメリカの各地で諸芸術を統合す

る実践が行われていた。しかし、現在の「標準」では、音楽科がいぜんとして1つの独立の教科として存在している。この流れは台湾の「芸文」に1つの示唆を与えたと考える。

注

- 1) ベネット・リーマー (1987) 『音楽教育の哲学』丸山忠璋訳、音楽之友社、pp243-244。
- 2) 日本教科教育学会 (2004) 『日本教科教育学会誌』第27巻第3号のpp. 57-91を参照のこと。
- 3) それらの批判は以下の論文からまとめたものである。
 - ・丁金環 (2002) 『台中縣國民小學藝術與人文領域實施情形之調查研究』國立新竹師範學院國民教育研究所美勞教學碩士班碩士論文。
 - ・倪明和 (2003) 『國民中學視覺藝術課程實施現況研究—以中部五縣市為例』國立彰化師範大學藝術教育研究所碩士論文。
 - ・張育瑄 (2003) 『國民中學九年一貫藝術與人文領域實施現況調查研究』國立彰化師範大學藝術教育研究所碩士論文。
 - ・王麗惠 (2003) 『彰化縣國民小學藝術與人文領域實施情形之調查研究』國立新竹師範學院美勞教育研究所碩士論文。

参考文献

- ・Beethoven, J, Brumfield, S, Campbell S. P. etc. (2002) *Silver Burdett Making Music Teacher's Edition grade 1*、Pearson Education, Inc.
- ・Ibid., *grade 2*.
- ・Bresler, Liora (1995) The subservient, co-equal, affective, and social integration styles and their implications for the arts, *Arts Education Policy Review*, 96 (5), pp.31-37.
- ・Consortium of National Arts Education Associations (1994) *The National Standards for Arts Education*, Music Educators National Conference.
<http://artsedge.kennedy-center.org/teach/standards/introduction.cfm#04a>
- ・平田亜矢 (2000) 「アメリカの音楽教科書The Music Connection シリーズにおけるIntegrating the Curriculum の傾向性について」『武蔵野音楽大学研究紀要』第32巻、pp. 81-97。
- ・桂直美 (1988) 「戦後アメリカの『美的教育』にみる音楽教育の目的観についての考察 (1)」『音楽教育学』第17巻第2号、pp. 14-23。
- ・音楽之友社 (1993) 「特集『表現科 (音楽) を考える』」『季刊音楽教育研究』第36巻第4号。
- ・松信浩二 (1999) 「『全美芸術教育標準』(National Standards for Arts Education) の成立、内容、及びその展開—音楽科における学際的なカリキュラム開発の視点から—」広島大学教育学部修士論文。
- ・MENC (1994) *Teaching Examples: Ideas for Music Educators*, p.52.
- ・Reimer, B. (1970) *A philosophy of music education*, Prentice-Hall, Inc..